

平成23年度 事業報告書

1 事業概要

高知県から指定管理者制度に基づく指定を受けて、①歴史民俗資料館、②埋蔵文化財センター、③坂本龍馬記念館、④美術館、⑤県民文化ホール、⑥文学館の管理運営を行い、県民サービスの向上や一層の経営の視点に立った運営に努めた。また、埋蔵文化財発掘調査や芸術文化活動の振興に資する多様な事業を実施した。

(1) 歴史民俗資料館

高知県内の歴史・考古・民俗資料の調査研究・収集保存・展示公開をして、土佐の人々の足跡を現在及び次世代に伝えることにより、県民文化の振興に寄与し、伝統を活かした個性豊かな郷土の発展に貢献することを目的とし活動した。また県内の博物館・資料館の中心的施設としての役割を持ち、地域と連携・協力した地域の文化遺産の保護保全活動と併せて、これらを活用した地域活性化事業にも取り組んだ。

昨年度の特殊要因の特別展「龍馬伝（集客数35,648人）」を除いた約3万人を来館者目標と掲げ、NHKと共催の「おもちゃ展」や文化庁巡回展「発掘された日本列島」等の他機関と連携した目玉企画展を開催したほか、県内の戦国史跡を巡る「長宗我部元親ゆかりの地巡り～土佐戦国七守護の山城探訪～」といった新しい切り口で、当館の得意とする歴史分野を活用した企画で話題を呼び集客に繋がった。

利用状況

展覧会	入館者（人）	料金（千円）	備考
常設展	2,418	613	(入館者内訳) ・有料一般：13,329人 (40.1%) ・小中高生：6,413人 (19.3%) ・長寿減免者：13,504人 (40.6%)
企画展	30,828	5,526	
計	33,246	6,139	

(2) 埋蔵文化財センター

受託事業として開発等に伴う埋蔵文化財の発掘調査を行うとともに、指定管理事業として県立埋蔵文化財センターの施設管理及び出土文化財保管管理活用業務並びに埋蔵文化財保護推進のための広報普及事業を実施した。

ア 発掘調査受託事業

区 分	調査箇所数	調査述べ面積 (㎡)	備 考
受託発掘調査	21	42,508	本調査・試発掘調査整理作業を含む

イ 利用状況

展 示 会	会 期	参加人員 (人)	備 考
企 画 展 1	H23. 4. 19 (火) ~H23. 6. 24(金)	490	考古資料からみた高知県の歴史
巡 回 展	H23. 7. 1(金) ~H23. 9. 11(日)	1,521	第3回「続・発掘へんろ」 - 古墳時代 -
企 画 展 2	H23. 9. 27 (火) ~H23. 11. 26 (土)	466	道路開発であらわれた遺跡展V
特 別 展	H23. 12. 16(金)~H24. 3. 16(金)	369	出土遺物からみる江戸時代のくらし
	その他の期間の入館者	212	
	年間入館者総数	3,058	

(3) 坂本龍馬記念館

23年度は開館20周年記念事業として、下記の4本の特別企画展を開催したほか、記念事業に向けた3年連続企画の最終章となる「風になった龍馬 V o 1. 3 龍馬・海舟・万次郎一時代は未来へー」展に関連する「風になった龍馬」アメリカフォーラム（ハワイ・NY）の開催や開館20周年記念式典・シェイクハンド龍馬像除幕式の開催、記念誌～20年のあゆみ～の発行、祝★開館20周年記念イベントとして館の無料開放・「汗血千里駒」朗読リレー・手筒花火等を実施した。

また、館便り「飛騰」の発行や小学生を対象とした出前教育の実施等による教育普及活動を推進するとともに、「現代龍馬学会」総会及び発表会の活動や、龍馬検定システムの継続により、龍馬の顕彰と龍馬思想の普及はもとより、龍馬をより身近に感じてもらうための取り組みを進めた。

利用状況

展 覧 会	入館者 (人)	料金 (千円)	備 考
常設展・企画展	228,951	87,621	(入館者内訳) ・一 般 : 187,379 人 ・小中高生 : 22,423 人 ・乳幼児 : 5,885 人 ・減免・招待者 : 13,264 人

(4) 美術館

常設展（コレクション展）及び企画展の展覧会開催や、子どもを対象とした出前びじゅつ講座、学校移動美術館、美術と美術館に親しんでもらうための講座やワークショップの開催、毎週日曜日のギャラリー・トーク、学芸員によるサタデーレクチャー等による教育普及活動を実施した。また、平成19年度から実施してきたアートプロジェクト「休・廃校活性化プロジェクト」は、平成22年度から、いの町上東地区に会場を移し、地域グループの協力を得て地域の活性化のきっかけとなりうる文化資源の再発見と活用に向けた新たな成果をあげた。

美術館ホールでは、18年度から実施している美術館ホール活性化計画に基づき、舞台芸術、音楽、映画などさまざまなジャンルの芸術を展開した。

また、芸術文化創造・発表の場として、県民ギャラリーや美術館ホール等の貸出を行った。

ア 利用状況

展 覧 会		入館者（人）	料金（千円）	備 考
主 催	常設展（コレクション展）	8,505	1,392	（主催展の入館者内訳） ・一 般： 26,763 人 ・大 学 生： 1,441 人 ・小中高生： 3,609 人 ・減免・招待者： 16,720 人
	企画展	40,028	18,985	
	美術館ホール	4,081	3,665	
	計	52,614	24,042	
貸 館	第65回高知県展	10,735	—	（ホールの入場者内訳） ・一 般： 3,619 人 ・小中高生： 166 人 ・減免・招待者： 296 人
	第15回スピリットアート展	5,002	—	
	第40回ホルトパワーカー文化展	4,369	—	
	武政ガラス展	14,292	—	
	第62回こども県展	5,206	—	
	第32回高知県女流展	3,774	—	
	計	43,378	—	
美術館ホール		41,401	9,664	利用日数：260日
県民ギャラリー等		61,826	4,050	利用日数：285日
会議室・講義室等		—	2,822	利用日数：20日
写真撮影等		—	391	件 数：42件
合 計		199,219	40,969	

イ その他の事業

	事業名	年間合計利用者数(人)
館内	ホール事業 (会場：駐車場、創作室、シアタールーム、講義室、高知城)	5,122
	ワークショップ・講座等	11,799
館外	ハローミュージアム	222
	出前びじゅつ講座	674
	出前クラシック教室	427
	講師派遣	203
	舞台(演劇・コンサート)	2,794
	休・廃校活性化プロジェクト	110
計		21,351

ア + イ 利用者数総計 220,570 人

(5) 県民文化ホール

音楽、演劇、舞踊等の文化芸術活動の場として、また、大会行事等の会場として大小ホール及び多目的室を利用してもらうため、施設、設備の管理、運用を適切に行った。

また、自主文化事業を実施するとともに、技術職員派遣研修や県民文化ホールでの技術研修を実施した。

ア ホール、多目的室の利用状況

区分	オレンジホール・グリーンホール				多目的室	備考
	オレンジホール	グリーンホール	楽屋他	計		
開館日数(日)	250	250	—	500	268	
利用日数(日)	174	177	—	351	利用回数 1,051回	
利用率 (21年度)	69.6% (64.5%)	70.8% (65.4%)	—	70.2% (65.0%)		
入場者数(人)	154,300	38,000	—	192,300		
使用料(千円)	34,214	7,798	19,976	61,988	8,291	計70,279

イ 自主事業

1) 自主文化事業	2 事業	延入場者	19,470 人
2) ホールネットワーク事業			
┌	・技術職員派遣研修及び技術支援	2 箇所	計 7 回
	・県民文化ホールでの技術研修		計 6 回

(6) 文学館

平成23年度は、高知ゆかりの作家や人々の心に訴える展覧会など下記の6本の企画展を開催し、子ども達も含め広く文学に親しんでいただく取り組みを行った。

常設展示室では、収蔵資料を中心に、定期的に作家の入替も行い、高知の文学者や作品の魅力をわかりやすく紹介するとともに、企画コーナーでは、生誕100年を迎える田宮虎彦をクローズアップし紹介した。また、寺田寅彦記念室では、大正12年の関東大震災の時に、寺田寅彦がドイツにいた友人小宮豊隆に送った震災の様子を知らせる絵葉書を、小宮豊隆の次女小宮里子氏から借用し展示紹介した。

教育普及事業では、文学カレッジ・専門講座をはじめ、児童生徒文学作品朗読コンクール、朗読の会、朗読フェスティバルなど、朗読を通して文学を身近に感じていただける取り組みをした。市民講座や高知文学学校などへの職員の派遣や児童クラブなどを中心に増加を見せている紙芝居ボランティア公演なども人気を博している。

文学団体や大学等の連携としては、高知工業高等専門学校などと寺田寅彦の「樁の落下」などの実験と文学館の寺田室の観覧を組み合わせた「サイエンス・パートナーシップ」を行った。

また、高校の文芸部などと連携を図り、若い人達の文学への興味や意識を高めた。さらに、土佐史談会との共催の「龍馬学十講座」、古文書解読の上級者を会員とする近世土佐文学研究会への支援などを行った。

資料の寄贈に関しては、小砂丘忠義氏のご遺族からの寄贈資料の整理を修了した。

館報「藤並の森」を年間4回発行、ホームページの内容を充実し随時更新を行うことで最新の情報提供ができるように努めた。

ア 文学館利用状況

種 別		入館者(人)	料金(円)	備 考
主催	常設展	932	177,800	(入館者内訳)
	企画展	19,004	4,350,420	・一般：9,794人 ・小中高生：3,296人
	計	19,936	4,528,220	・長寿者等：6,846人
ホ ー ル		9,750	720,000	利用日数：260 (166)日
茶 室		2,943	261,480	利用日数：119 (31)日
企画展示室		0	0	
合 計		32,629	5,509,700	

※備考（ ）内は、使用料免除及び当館主催の件数

(7) 文化財団総務部

ア 文化事業に対する助成事業

文化関係団体等の行う文化事業に対して助成金を交付し、県内文化の振興発展に努めた。

イ 高知県芸術祭開催事業（受託事業）

県民が芸術文化に接する機会を増やし、県民自ら参加する文化活動の促進に努め、文化の息づく郷土づくりを進めるため芸術祭を開催した。

ウ こうちミュージアムネットワーク事業

県内の博物館施設及びその他資料の研究・保存・展示・公開を行う文化施設、並びに文化行政機関・教育機関において情報を共有し、共通問題の検討・協議を通して職員の資質向上を図り、県内の文化施設の活性化と県民の求める文化的サービスを提供した。

エ 文化による元気な地域づくり事業

各館の教育普及プログラムの積極的な広報、合同ワークショップの開催など、教育委員会や地域等と連携した取り組みを行った。

オ カルチャーサポーター事業

各施設のボランティア組織であるカルチャーサポーターの平成23年度の認定証交付を行った。

2 重要議決事項

(1) 理事会

議決年月日	議 決 事 項	
平成23年5月27日	第1号議案	平成22年度高知県文化財団事業報告及び収支決算
	第2号議案	平成23年度高知県文化財団一般会計及び指定管理者会計補正予算
	第3号議案	財団法人高知県文化財団就業規程の一部を改正する規程
	第4号議案	財団法人高知県文化財団における最初の評議員の選任方法について
	専決処分に 係る報告事項	(1) 平成22年度高知県文化財団指定管理者会計及び事業会計補正予算（平成23年3月31日付け専決処分）
平成23年9月7日	第1号議案	財団法人高知県文化財団における最初の評議員選定委員会規則について
	第2号議案	財団法人高知県文化財団における最初の評議員選定委員会の外部委員となる者の選任について
	第3号議案	財団法人高知県文化財団における最初の評議員選定委員会の委員となる者の承認について
	第4号議案	財団法人高知県文化財団における最初の評議員候補者の推薦について
	専決処分に 係る報告事項	(1) 平成23年度高知県文化財団一般会計補正予算（平成23年8月19日付け専決処分）
平成23年11月28日	第1号議案	公益財団法人移行後の定款の案について
	第2号議案	公益財団法人高知県文化財団役員及び評議員の報酬並びに費用弁償に関する規程
	第3号議案	移行認定申請書について
	第4号議案	財団法人高知県文化財団契約職員就業規程の一部を改正する規程
	専決処分に 係る報告事項	(1) 平成23年度高知県文化財団指定管理者会計補正予算（平成23年10月5日付け専決処分） (2) 財団法人高知県文化財団就業規程の一部を改正する規程（平成23年6月29日付け専決処分） (3) 財団法人高知県文化財団契約職員就業規程の一部を改正する規程（平成23年6月29日付け専決処分） (4) 財団法人高知県文化財団自家用車の通勤及び業務使用に関する規程（平成23年10月11日付け専決処分）
平成24年3月26日	第1号議案	平成24年度高知県文化財団事業計画及び収支予算
	第2号議案	平成23年度高知県文化財団一般会計及び指定管理者会計補正予算
	第3号議案	公益財団法人への移行に伴う関係諸規程の改正等について
	専決処分に 係る報告事項	(1) 平成23年度高知県文化財団指定管理者会計及び事業会計補正予算（平成24年1月24日付け専決処分） (2) 財団法人高知県文化財団資産運用規程の一部を改正する規程（平成24年2月20日付け専決処分）

(2) 最初の評議員選定委員会

議決年月日	議 決 事 項	
平成23年9月27日	第 1 号 議 案	財団法人高知県文化財団における最初の評議員の選任について

3 行政(監督)官庁許可・認可及び登記事項

官 庁 名	許認可登録年月日	件名又は登記事項
高知地方法務局	平成 23 年 4 月 1 日	財団法人高知県文化財団変更登記 (理事の変更)
高知地方法務局	平成 23 年 9 月 1 日	財団法人高知県文化財団変更登記 (理事の変更)